

# 阿嘉島臨海研究所 プロジェクトX

真木 正利  
財団法人熱帯海洋生態研究振興財団  
理事

“Project X” accomplished by Akajima Marine Science Laboratory

M. Maki

NHKの人気番組の一つに「プロジェクトX」という番組がある。国井、膳場キャスターのコンビで過去の巨大プロジェクトを紹介し、そこで展開した人間ドラマを紹介する番組である。プロジェクトとは、ある目的のために様々な専門知識や技能を持った人たちが集まりお互いに協力しながら目的を達成するものである。使命感を持った優秀な人材をどのように集めるか、いかにそれらの人達が協力し合える環境を作るかが成功の可否を決定する。阿嘉島臨海研究所で行ったプロジェクトも専門の知識や技術を持った人達が協力しあいながら達成したものであった。私が直接かかわった、2つのプロジェクトを紹介する。

## サンゴの産卵のハイビジョン撮影

最近、地上波でデジタル放送も始まりハイビジョンは手近な物になってきた。1989年当時まだ試験放送の段階であったハイビジョンを使って、まだ一般の人たちに知られていなかったサンゴの産卵を撮影しようと言う事になった。といってもハイビジョンの撮影は地上撮影の際でも大きなバスに機材一式を積みこんで撮影をする時代であり、費用的にも技術的にも研究所の単独で実行できる規模を超えていた。

まず最初は、プロジェクトにジョイントしてくれる団体や企業探しから始まった。しかし、ハイビジョン普及協会やNHKなどの関係部署と折衝したがなかなか合意に至らなかった。そこで、私の勤務先の友人の一人がソニーのハイビジョンソフト開発室の責任者であることを思い出し、話をしてみると以外にあっさり「やりましょう」とのこと。機材一式と撮影に関する技術はソニーが提供、海に関する技術や設備は研究所が提供し、出来上がった成果物は双方で共有することで大枠の合意が成立し実現に一步近づいた。

ソニーサイドは実行部隊の関連会社であるソニーPCLにチームが編成され、まず水中撮影用の水中プ

リンブが設計され制作された。出来上がってカメラ本体を入れるとなんと150キロの重さである。研究所では撮影場所の選定、産卵されたバンドルをどのように集めるかの予備実験、サンゴの専門家Andrew Heyward博士の招聘、機材を乗せる撮影船の手配など撮影X-デーである1989年6月上旬に向けて準備が進んだ。

いよいよ、産卵予想時期の一週間前頃にはソニーPCLのリーダー神谷氏とスタッフ総勢6名、プラヌラの顕微鏡撮影用にカールツワイスから機材の操作要員、150キロのカメラを水中で操って撮影するカメラマンの横井氏、オーストラリアのHeyward博士などが続々研究所に集結し、それぞれが準備や実験に取りかかった。

これまでの準備が万全であったためか本番の撮影は意外にあっさり完了。撮影された約35時間の映像をストーリー性を持たせたコンパクトな作品に仕上げる作業を残すのみとなった。何度かの編集会議がもたれ、キャサリン・ミュージック氏の絵本を下敷きにストーリーを作る方針が決定し、キャサリン氏の了解も得られた。

その後、創作された音楽を挿入し完成した作品は研究所サイドでは学会等で紹介され映像の美しさと内容のすばらしさが評価された。一方、ソニーではハイビジョン普及のプロモーション用として多用された。

## バーチャルダイビングCD-ROMの制作

「ダイビングを楽しむ人達にもっと海や生物の知識を持って欲しい」保坂理事長のこんな一言からこのプロジェクトは始まった。ガイドまかせで漫然と海に潜るのではなく「今日のダイビングはこんな生物を見つけてみたい」等といった目的を持って潜るとダイビングの楽しみも一段と大きくなる。そのためには、どんな生物がどんなところで生息している

か等の生態を知って居ることが大切。そのための知識を楽しく学べる物を作りたい。1997年、保坂氏を中心に集まったダイバー仲間のブレーストーミングの結果、パソコンを使いインタラクティブのバーチャルダイビングCD-ROMを作るようになった。ダイビングポイントを選び、海に潜って360度周囲を見渡すと色々な生物が生息している。その生物をクリックすると詳しい生態の説明がでてくる。こんなものを作ることにした。

ちょうどその時期に、シンガポールのソニーシステムでコタキナバル山の野鳥に関するCD-ROMを作った噂を聞きつけ、モルジブのファンダイビングの帰りにシンガポールに立ち寄り、制作担当者に様々な経験談を聞かせてもらい具体的な計画が煮詰まってきた。構想を実現するためには水中映像の撮影、生物の写真と説明文など膨大なデータの準備が必要である。プロジェクトメンバーはサンゴのハイビジョン撮影で活躍した横井カメラマンが撮影、CD-ROMの制作はソニーPCLの神谷さん、大森先生は生物の生態に関する監修、保坂理事長、小川さん、真木が折衝、コーディネーション、雑務を担当。

水中撮影は気候の良い秋をねらって開始した。水中で360度パノラマ写真を撮ることは初めての経験であったが試行錯誤の結果、水準器を使ってカメラを設置し、細かく角度を変えながら360度の周囲の撮影を行った。幸い気候に恵まれ、1週間程で撮影は終わった。生物データベースの写真は今まで撮り貯めた映像や益田一さんからお借りした映像などを使い、説明文の作成や英文への翻訳などは会社の仕事が終わった後、夜の仕事であった。

ようやく形が出来たのが、すでに年を越し、1998年3月になっていた。出来上がったCD-ROMは「Coralscape in Okinawa」というタイトルで様々な分野に配布され好評を得た(図1)。

#### 今後のプロジェクト

阿嘉島研究所の所有する膨大なサンゴの写真をデータベース化し、世界の研究者に提供しようと言う構想が浮上している。今後、具体化に向けて様々な検討が必要であるが、是非実現のお手伝いをしたいと

思っている。生物学には門外漢の私が、仕事上で得たプロジェクト企画、管理の経験やITの知識を活用して、財団の活動に参加出来ることは大変幸せな事である。



図1. CD-ROM「Coralscape」のバーチャルダイビング。  
画面上で好きな場所を選び、カーソルの操作で海中を360度見渡すことができる。見つけた生物をクリックすると解説文が現れる。